

あなたのそばで県議会（始良・伊佐地域）

開催日時 令和2年8月22日（土）午後1時30分～午後3時30分

開催場所 湧水町栗野中央公民館（湧水町）

参加者 一般県民58名 県議会46名

内容 ①議会活動の説明

②意見交換

・テーマ「あなたの考える始良・伊佐地域の振興策」

○意見交換会で出された質疑の項目

- 1 県道北永野田小浜線について
- 2 伊佐湧水地区への養護学校の新設について
- 3 鹿児島県工業団地予定地買収後の管理について
- 4 河川の寄洲除去について
- 5 総合体育館の鹿児島市以外での建設について
- 6 霧島市への大型メガソーラー計画について
- 7 小学校への猿の出没について
- 8 体育館問題等発想の転換について
- 9 農業と観光の融合による地域経済の発展について
- 10 北薩横断道（地域高規格道路 溝辺道路）の早期完成について
- 11 湧水町の様々な課題について
県道103号栗野停車場えびの高原線について
- 12 新型コロナウイルス感染症対策への取組について
河川の排水機場の管理について

○意見交換会で出された質疑の具体的な内容

一般県民 A

霧島市の公立学校の前を通る県道北永野田小浜線では、離合できない場所が何ヶ所もある。
40年近く道路状況が変わってないと感じている。

(山田国治 議員)

鹿児島県は南北600キロある中、どこを優先して、拡幅するかということ。限られた財源の中で、最大の効果を上げるのが行政の鉄則。

しかし、今おっしゃったことは非常に大事なことなので、意を強くして、これからも予算がつくように頑張りたいと思う。

一般県民 A-2

事故が起きた場合には、県の責任になるのではないかと思うが、どのように考えているか。

(山田国治 議員)

事故というのは、起こらないほうがいい。起こそうと思って事故を起こす人は1人もいない。

しかし、事故は、いつ起こるか分からないものであり、道路が狭いことが原因で事故が起これば、行政の責任ということもあると思うが、ドライバーは運転をする時は、注意をして、道路が狭ければよく考えて、カーブでは速度を落とさないといけない。マナーをしっかり守る事が大事。

(鶴丸明人 議員)

北永野田小浜線を、2車線にするということは難しいということで、部分改良できないかということで、29年度までに160mぐらいの部分改良がなされている。

その後、140mぐらいの区間について、用地買収が終わって、着工になるという状況であり、さらに進んでいくのではないかと思う。

問題意識としてしっかりと踏まえていきたいと思っているので、補足をさせていただく。

一般県民 B

養護学校の新設について伺う。
出水養護学校までの長過ぎる通学時間は、伊佐湧水地域の児童生徒及び父兄の皆さんに対する大きな負担になっている。

関係者の多くの皆さんから、何とか伊佐湧水地区に、養護学校ができないかという多くの要望が、だいぶ前から寄せられおり、町当局も、県の関係先に何度となく要望を繰り返しているが、実現していない。

将来的には、この伊佐湧水地区に新たな養護学校ができるということを期待してよいのか。

(池畑憲一 議員)

出水養護学校の保護者の皆さん、そしてその子供さんが、非常に難儀されているということは、私も、常日頃、お聞きしている。そういう中で、通学時間の短縮については、県教育委員会などに、改善を呼びかけてきたところであり、通学路線のバスを増やしたりして、短縮には努めているところである。

ただ、出水養護学校に行くまで、いろんな道路を通るが、カーブやアップダウンが多く、子供さん、保護者の方にも、大変なストレスとなっており、それに伴う体調悪化などもあると聞いている。

そういう中で、湧水伊佐地域に、特別支援学校、養護学校が必要だということで、伊佐市においても、何年も前から、県議会、そして、知事に、要望を行っているところである。

私は、随分前から、この地域への養護学校の設置について、関わりを持っているので、いろんな方と話をしているが、ぜひ、この地域に、養護学校を設置するという強い気持ちを持って、湧水地域、伊佐地域が一体となって、これからも一緒に取り組んでいきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。私は、この地域に学校ができるということは、実現できると思っているので、一緒に頑張っていきたいと思う。

(田之上耕三 議員)

伊佐、湧水への養護学校設置の要望ですが、前知事の湧水での車座対話の折にも、この通学路の問題で、保護者の方から要望が出た。

そして、現在、文教警察委員会へも、保護者の方から要望が出ており、今審議の途中である。県としては、通学バスの便数を増やすなどして通学時間を短縮をしているとの答弁である。

今後委員会審議の材料として、通学時間を今一度細かく、教えていただければと思う。

一般県民 C

鹿児島県工業団地、買収後の管理について、現状は、20年間放置されたままで開発も何も進んでいない。

今では、放置された山の中が、イノシシ・シカ等のすみかになっており、周辺の農作は、多大な被害を被っている。

農家の高齢化とともに、今後とも被害が多く発生するようなことになると、農作を断念せざるをえないことになる。

鹿児島県はこのような、稲作農家の収入源である田畑の被害について、どのように考えているか。

また、買収された工業団地は、今後どのように開発され、あと何年ぐらいかかるか伺う。

(米丸まき子 議員)

霧島くりの工業団地は、2000年から2010年にかけて10年間にかけて用地買収を行い、その後10年間、20年間にわたり、特に着工が進んでいない状態である。私も現場を見に行ったが、美しい田んぼが周りがあるが、ネットでずっと囲われており、本当に被害が絶えないんだなということを見させていただいた。

そこで、県の執行部に尋ね、回答として3点もらっている。

まず1点目が、今後も引き続き、造成済み団地の分譲、そして企業誘致に力を注ぐということ。

2点目が、団地の管理については、これまで年間を通じて定期的に巡回点検を行っているが、今年度から地元湧水町への被害の状況をさらに聞き取りした上で、点検箇所を増やしていくとのこと。

3点目が、湧水町が、被害防止計画に基づき実施する被害対策に積極的に協力することとしており、敷地内で倒れた木や、草刈等を行うため、また、わなの設置や軽トラックで鳥獣の運搬ができるようにするため、団地内の路面整備を行っていくということである。

今後とも、霧島くりの工業団地における鳥獣害被害の情報収集に努めるとともに湧水町における被害対策に積極的に協力していくというのが、県の回答である。

ここからは、私の意見だが、周りを見て回ったが、全て山である。どこが造成してあるのか、見つけることができなかった。73.9 ha、東京ドームにすると16個分の土地。これが一般企業で、10年かけて土地を買収し、20年経って、1個も売れないとなったら倒産である。県も努力していると思うが、工業団地というネーミングが、本当にいいのかと思う。工業用地としてのイメージが強くなると思うが、今、本当にあの場所に企業が来るのか、どんな企業が来るのか、想像できなかった。

理由の一つに、まず時代背景があると思う。1990年代、ビジネスのグローバル化が進み、賃金が安い東南アジア諸国に工場が移った。

二つ目が、2010年代に入ると、少し流れが変わり、グローバル化の中で、海外に拠点を移していた工場等が海外の賃金が上がったため、地方に工場を移す方が日本語も通じ便利だと、移ってきた中で、大手の企業が、いろんなところに工業団地に工場を移したというのがあったが、私は本当にこの工業団地に移ってくるのがいいことなのか不安である。

例えば、出水にNECやパイオニアが入ったが、撤退により一気に1千人の雇用がなくなった。本当に工業団地、大型の工場を持ってくるのがいいことなのか二つ目の疑問である。

そして三つ目だが、現在、国の構造が変わって、日本は製造業で働く人より、サービス業で働く人の方が多くなり、この湧水町は1万人ぐらいの人口だと思うが、大きな工場が

来て、働き手がいるのかというのがすごく不思議なところである。

工業団地は、鹿児島県全土にたくさんあると思うが、この三つの理由から、今後は、鹿児島県が、企業誘致に関して、抜本的な戦略を変えて、企業誘致をしていかないといけないのかと思う。

最後に、報道で、塩田知事が今回総合体育館の候補地が白紙になったということだったが、これまでいろいろな箱物行政というのが、鹿児島市を中心に話が進んでいたが、始良市や湧水町、霧島市など、本当に地方の均衡ある発展という点も踏まえて、今後の工業団地のあり方について考えていかなければならないのではないかと思う。

一般県民 C-2

三菱地所は工業高校跡地で、会社を設立して木材を使うので、ここに工業団地の木材を売却すれば、お互いに助かるんじゃないかなと考える。距離的にも近く、経費もかからないし、そのあたりを県の方で進めてもらえれば、少しでも木がなくなれば、イノシシもシカもいなくなり、我々農家も助かる。

一般県民 D

河川に堆積している土砂の除去について、寄洲の除去は、災害の予防に繋がる。国は、緊急浚渫事業というのを設けて、令和2年から6年まで5年の時限立法で、4900億を予算計上し、全国の寄洲除去を進めている。議会の活動報告では、寄洲についても、増額して進めていきたいというような回答があるが、県内の寄洲除去をどのように推進していくのか伺う。

(山田国治 議員)

南北600キロどこの地域に行っても、どの川でも、「寄洲除去をしなくていい。」という川は一つもない。

ただ、大事なことは、水害に直結するような、雨の量が多く降った時は水害に繋がるといふ所は、土木事務所の人達と意見交換もしながら、ここはどうだ、ここがどうだと意見があるときは、我々を呼んで、意見を聞かせていただければ。

先ほど予算の話も出たが、随分前に同じような話があり、その時に、寄洲除去の予算を3倍にした。3倍にしても12億だが、南北600キロの中では、全然間に合わない予算である。

それでも、水害が起こってからどうにかするのか、ということになるので、そこは地元の方、詳しい方々が、我々を呼んで、色々、示唆いただければ対応していきたいと思う。

一般県民 E

いろんなものを鹿児島市に集中しすぎてるんじゃないかなと思う。

今日の新聞に載っていたが、知事が代わり総合体育館を白紙に戻すということになっているが、疑問なのは、なぜ土地の狭い、人の多い所に造らないといけないのか。

鹿児島県全体を見たときに、始良市とか、霧島市、この辺が鹿児島の、地図でいくと真ん中ぐらいになると思う。この湧水町だってそんなに不便な場所ではない。

だから、県立の建物であれば、鹿児島市以外に建てるのも選択肢じゃないかなと個人的に思う。

なぜ鹿児島市でないといけないのか。鹿児島市以外にそういう総合体育館を作ったら問題があるのか、その辺を教えてもらいたいと思う。

(山田国治 議員)

なぜ鹿児島市でないといけないか。この議論は、我々もした。

最初、中央駅の近くを、「最適地」という言葉を使った。それから、反対があり、MBCグラウンドの所か、谷山の農業試験場となった。

それからまた、先ほど新聞で、新しい知事がコメントしたということで、私が委員会で、言ったのは、「鹿児島市のどこかに」という枕詞があると。これが「鹿児島県のどこかに」と言えば、加治木の方にも広い土地があるから、そこはどうかと、私も後押しをした。でも、執行部は、限られた予算で最大の効果を上げるというのが、行政の鉄則なので、あそこには陸上競技場がある。野球場がある。そこで、体育施設はその一角にまとめよう、というのが執行部の考えだったと思う。

例えば、臨空団地には、企業が大体50%張りついている。張り付いているのを除けて、あそこに、グラウンドを造れと言うと、立ち退き費だけでも相当な金額がかかる。空き地であれば、他にも、最適地がある。

しかし、鹿児島市の人に言わせれば、鹿児島市に造れと。我々地方は、「あなたたちは、県土の均衡ある発展といいながら、どこが均衡ある発展か」ということも言う。

それでもやはり利用率、人口の集約率。利用率が悪ければ、なんでということになるので、その辺のバランスをとりながら、おっしゃることは十分わかるので、これからも、我々は地方の議員なので、その立場で、声を大にして、訴えていきたいと思うので、理解いただき、その中で気づいたことがあった時は言ってほしい。

一般県民 F

霧島市の霧島、田口大窪という地域で、面積にして40万坪の大型のメガソーラーの計画が上がっている。

霧島市では、平成 31 年に、メガソーラー反対の陳情書が上がり、全会一致で賛成し、陳情を受け付けた。そして市長も反対しており、メガソーラーは、霧島には作って欲しくないと、しっかりと伝えているところである。

この件に関して、市民から、市議と市長は反対しているのはよくわかるが、県議会議員、そして県の方は、我々の味方になってくれているのかという意見をよく聞くので、そこら辺をしっかりと伺いたい。

県は、この反対の意見をしっかりと受けて、どのように進めるのか伺う。

(鶴丸明人 議員)

大規模太陽光発電の問題については基本的な認識として、私個人は、太陽光が不必要だという考え方ではないが、場所がどういうところか、国立公園であったり、文化財があったり、それから誰が投資をするのか。そういったことを総合的に考える必要があると思っているので、今回の霧島の田口の部分は、私は明確に反対の立場である。

この点は、今回の9月議会で、少し掘り下げて議会での質問もしようと思っているので、その中で委員の考え方も、明らかになってくるのではないかと思うが、いずれにしても、個人がこれで答えられる訳ではない。

反対の文書の中で私も、反対を明確に表示をしてる1人であるので、そういった立場で、私は答えたい。

外国資本であるということ。それから、国立公園であるとかそういう、風光明媚なところであると。地元が、首長を含め議会が反対してるところに、進めるということは、できないという考えなど、幾つかの要素があるが、それらを含めて、反対の立場であるということである。

一般県民 F-2

この計画のことはしっかりと考えていただければ大変ありがたい。

今計画されている場所は、山の上を削って造るという計画になっている。急傾斜地で、水源地が2ヶ所ある。そして、古代からの文化が残っている大事な場所で、霧島神宮の隣接地域、目の前になる。

本当に大規模な計画で、何としてでもこの霧島を守るというよりは、鹿児島県を守るつもりで考えてもらいたい。 9月議会を期待している。

(山田国治 議員)

日本は法治国家ですから、法律に違反していたら、誰が反対したところで、誰が賛成したところで、できない。

今、当該地域を、我々も、何か法律に違反をしていないか、反対をする方法がないかというのを模索している。我々が聞かれたとき、地域住民が反対してるものを何で造るのかと言う。しかし、法律に「地域住民が」というのがあるかどうかと聞かれたとき、法対法で戦う時に、幾ら自分たちの感情としてあっても、法律で相手が来た時にそれをうち返す法律を、いろいろ見てるが決定的なものがない。

その中に、議長が反対をしたり、例えば国分の霧島の議会が反対するものは造れないと

いう、一行があれば、簡単に阻止できる。しかし、それらがなければ、地域住民が反対しても、法的な制約で縛りはかけられない。「私は反対する。」それは誰でも言えるが、実現しないと、何もならない訳で、言うのは勝手だが、言ったことは実現しないとイケない。だから実現するには、こういう法律で出来ないかと、こういう制約があるというところを我々も知恵を出し合って、スクラムを組んで、地域住民の反対するものは絶対造らせない努力をしましょう。

繰り返しになるが、法的に向こうが訴えてきた場合に、これを打ち返すだけの、理論武装もしないといけない。大事なものは、一つの法律の後ろ盾、それを持った上で、やっぱり闘う時には闘わないといけないと思う。

一般県民 G

始良市北山小学校に通っている。
学校の遊具で、猿が遊んでいた。あと、スモモも食べられた。
多分、学校の隣にある廃屋で、住処を作っていると思う。
廃屋を撤去したら猿はいなくなるか。

(前野義春 議員)

今、新聞で、県内であちこちにサルが出没しているという、ニュースが流れている。
質問に率直に答えると、まず廃屋を撤去しても、猿は居なくなるということはないと思う。

というのは、今、イノシシや猿、シカが、里に人が住んでるところに、降りてきて、悪さをするという問題が、県全体で広がっている。そして、国や県や市町で、イノシシやシカを捕まえるという政策をとっている。

残念ながら、猿の捕獲数というのは少ない。県内でも、イノシシやシカは多い。なぜかという、各地域にいろんな話、迷信があり、猿を捕まえる人がなかなかいないという問題がある。

猿などは、人間が、生活をしているところでは、いとも簡単に、餌にありつけるということを学習をしまっているそうである。山で難儀して、木の実をとるよりも、ちょっと里におりて行けば、柿やミカン、いろんなものが簡単に手に入る。しかも、畑に行くと、からいもの小さいものなどがそのまま放置がされてる。猿にとっては、餌にありつける状況にある。これは学者の先生が、むしろ人間社会の中で、エサを動物に与えてるとおっしゃっているが、まさにその通りだろうと思っている。

そのため、この動物たちに里山に帰ってもらおうという取組を行っているが、なかなか進んでいない。

従って、今学校の遊具で遊んでたという話があったが、猟友会の方々に犬で追い返すとか、そういうことを当面行っていかなければならない状況にあると思っている。

ただ、市町村や県も、鳥獣害対策はいろんな方法をとっており、田んぼには金網がしてあると思う。そういうことをしながら、何とか、猿たちに、元々住んでる山の奥に帰ってもらうための取組を行っているが、非常に気の長い取組だろうと思っているので、日頃学校等々で見つけたら、すぐ大人や先生、或いは近くの人に、話をして、まずサルから狙われないという、身を守る取組をしていただきたいと思います。

一般県民 H

先ほど体育館の関係の話が出たが、私は井戸の中から出て考えようと思っている。日本戦後 75 年、全部が井戸の中に浸かってるから、井戸から出て、今後年 100 年 300 年先を考えようと思っている。

体育館問題も 60 数年前にできた頃は、文化スポーツの殿堂として他になかったと思うが、今では市内や各地区にも、大きな体育館がある。

県の施設である。私は、溝辺は高台で、南海トラフいろんな巨大災害等も大丈夫で高速もあり、日本全国の拠点となって活躍できる可能性は現にあると思う。

人口も減る 50 年先、先を見据えて考えるという観点が必要であると思う。体育館にこだわらず、県の総合施設の建設というふうにしてもらいたい。

長くなるが、農村に人口が減っており、いかにして人口を増やし、第 1 次産業を復活したらいいのか。その復活した農林水産物をいかにして、販売、農業収入向上につなげたらいいのか、農業立国への、道筋ロードマップはどうしていったらいいのか意見、アドバイスをいただきたい。

(いわしげ仁子 議員)

今お話いただき本当に納得した。鹿児島だけではなく日本全体だと思うが、井戸の中に居過ぎて、世界で何が起きているか全然わかってない状況になっている。

体育館の例では、世界の潮流として、先進国では、税金を使って体育館を造るっていうこともしていない。民間の投資で稼ぐ、アリーナ体育館を造るのが、本流となっている。

例えば、スウェーデンのマルメ市という、人口が 30 万人の都市で、フリーア地区という人口が 3 万 3000 人ぐらいの、鹿児島でいえば、指宿のような南の農村地帯だが、民間投資でアイスホッケーのアリーナ、ホテルを造ったところ、アリーナを中心に、もともと畑だったところが街になり、雇用が生まれ、マンションができ、高齢者施設や学校ができたりと、民間の、その土地の人々の、努力、熱意で、そういったことができています。

日本は、そういった事例は一つもなく、どこの市町村、都道府県も、従来通り、それぞれ戦後 75 年間全く変わることなく、税金で体育館を造ろうとしているが、そろそろ私たちも目を覚まして、世界でどういうことが起きているのかというのを、県庁職員の方々が、今現在、海外の事例を学ぶことができていない。なので、私たち議員が行って見てきて伝えても、やっぱり見て、その場で、実際に運営、造った方々の話を伺わないと、わからな

いことがたくさんあると思う。なので、今までの知事にもぜひ県庁の方々を送ってほしいと話したが、県庁の方々はもちろん、私たち県民もそういうことを自分から学んでいって、そしてまた皆さんで、鹿児島県をどうするのかということについて考えていかなければならないなと思っている。

農業立国に対してどうするかということも、オランダの方でスマート農業を見てきたが、若い方々が、スマート農業で稼ぎながら楽しんでいるという実例を見たので、そういうことが鹿児島で展開できればいいと個人的に思っている。

子供たちが、今後ワクワク、過ごせるような鹿児島をつくれるようにしたいと思うので、また皆さんからいろんな意見をいただきたい。

一般県民 Ⅰ

湧水町で有機農業している。

畑の中にコロナは全くいない。自然豊かな町で水も綺麗だが、今、コロナが何ヶ月と続いて、都市部でどんどん蔓延しているが、やはり、食べ物とか農業の大事さが、この数ヶ月わかってきたと思う。

私は、直営のレストランもやっており、飲食業も非常に厳しい状況だったり、観光も大変な状況だが、今、飲食業も観光のあり方も、この機会に変わっていくチャンスではないかと思っている。

こういう大自然、全くコロナを感じないようなところで、農業と観光を組み合わせたような、そういった地域経済発展のあり方を、今まさに考えていけない時じゃないのかなと思っており、そういう形で、いろんなアイデア、ヒントをいただけないかと思う。

私も今後、農業と食を融合させながら、人を呼び込んでいけるかなということを考えている。意見をいただけたらありがたい。

(向井俊夫 議員)

実際私も、飲食業、観光業、ホテル関係を行っている。

今回、私ども奄美の場合は、すべての航空路線が、成田からLCC、羽田からJAL、関空からピーチ、伊丹からJAL、福岡からJAL、沖縄からRAC。これらが2ヶ月近く、全部ストップだった。

そして、鹿児島からの往復8便のうち2便だけで、6便運休。

その2便も、密を避けるために、定員の半分しか乗せないということから、実質1便しか飛んでなかったという状況が1ヶ月半ぐらい続いた。

観光で潤っていた地域がお手上げという状況である

その中で気づいたのは、今まで地産地消という言葉が多く使われた。学校給食とかいろんな飲食用を、地元食材を使って、付加価値をつけて提供することが盛んに言われている

が、掛け声だけで終わっていた部分がある。それを真剣に正面から取り組んでいたところは、今回、大きな痛手はなかったのではないか。

もう一つは、観光面でも地産地消、地元域内、鹿児島県内。教育委員会にもお願いして、修学旅行等を県内でやる、これも地産地消。形を変えた地産地消。

それともう一つは、自給自足、今までちょっと忘れていた自給自足を今回、皆さん、見直してきたんじゃないか。

そういったことから、私は、自給自足と地産地消をキーワードにして、今、事業に取り組んでおり、そんなに大きな落ち込みは、私の会社に関してはなかった。

一般県民 J

霧島市の溝辺町のインターのところ、北薩横断道路のさつま町から溝辺町に通る道路整備をお願いしたい。さつま町は、横断道路が完成すれば必ず行き帰りもよくなる。国際空港で3車線ないのは鹿児島空港だけらしい。

隼人から上がる道路も、何年かかるかわからないという話が、何千万か調査費がついたと聞いた。少しでも、手をつけてもらいたい。

(田之上耕三 議員)

この地域高規格道路を見ると、一番肝心な、空港からのところが道路がないということで、要望を続けてきたが、なかなか認められなかった。そこで、「地域からの声がないとなかなか進まない」ということで、商工会、商工会議所、そして、建設業者の皆さん、いろいろ集まり、是非とも、溝辺から先にやって欲しいという要望も行い、今年度予算がついた。

玄関口がない道路であるので、1日でも早く、しっかりと予算づけに今後も努力をして参りたいと思うので、地元のご支援をよろしくお願いを申し上げたいと思う。

一般県民 K

体育館の話も出ていたが、もし、工業団地に、体育館建設誘致が可能であれば、有害鳥獣等から、農業を守るという意味で、大変有効な施策じゃないかなというふうに思う。ぜひ検討いただければと思う。

それから、継続的なことになるが、硫黄山の関係で、県議会の皆様方にはいろいろとお手伝いいただき、3年ぶりに米もつくれるようになり、大変ありがたく思っている。

ただ、まだ、硫黄山の噴火口から、有害物質が若干流出しているのので、今後とも、米、水稻作付を提供するためには、やはり全て除去しないと安心できない。

今、県議会の皆様方、宮崎の県議会の皆様方と一緒に、国に要望しているが、引き続きお願いをしたいと思う。

それから肥薩線。この前新聞で、廃止になるということであった。高校生の通学のすべであるので、ぜひ県の方でも、肥薩線の存続についても、要望していただければと思っているので、ぜひ力添えをいただければと思う。

それから、県道103号線、えびの市のえびの高原から栗野まで続く道だが、観光、そして農業の振興のためにも、ぜひ必要な道路と思うので、引き続き皆様方の力添えいただければありがたいと思っている。

湧水町の課題を述べたが、ぜひ、またお知恵をお貸しいただき、実現に向けて、力添えいただきたいと思います。

(田之上耕三 議員)

103号線の問題であるが、一昨年も宮崎県に行きお願いした。

この路線のうち、交通不能区間は、宮崎県の方が長く、約3.5kmの中の約3km。そして、我々鹿児島県は、500mしかないということで、宮崎県が、真剣に取り組んでいただき、予算も計上して、非常に好意的な回答を得ているので、私ども、議連も作っているので町長と一緒に、この路線に努力を傾けたいと思う。

肥薩線の問題も長年の間、認識しているので、今後とも努力を傾けたいと思う。

一般県民 L

新型コロナウイルスが毎日のようにテレビ、新聞で報道されている。

三密の回避、不要不急の外出の自粛、マスク、手洗い、うがい、そして、その中において、鹿児島国体が延期となり、ほとんどのスケジュール・行事も延期中止となった。

第2波のど真ん中にあるとの発言もあったが、鹿児島県でも、クラスターが発生し、感染者が増大してきつつある。

コロナウイルス拡大を防ぐために、県、県議会として、どのように終息するように、どのような動きをされているのか伺う。

もう1点。7月初旬に、豪雨のため、川内川が増水した。しかし阿波井堰の改修により、スムーズに下流へ流れていたが、内水面が多く増水した。

排水機場は、設置されてから何十年もたち古く、道路は、国道、県道、ほとんど浸水して通行止めとなり、迂回路を使うにも浸水していた。鹿児島県と宮崎県の県境にある、国道268号線の狭窄部が、何年たっても改良されない状況である。住民は、18年度の水害を思い出し、大変不安に陥っていた。

この浸水の後、県議会議員方が現場を見に来ていただいたが。このように、住民のために、働いていただければと希望する。

(吉留厚宏 議員)

まず、新型コロナ感染症というのは、若い人には、割と重症化しない。お年寄り、もっと端的に言えば 70 歳以上の方が、重症化する割合が高い。それでも、重症化は 10 数パーセントという結果が出ているので、そう慌てる必要はない。

コロナウイルスは 6 種類ある。2 種類は SARS、MARS、あと 4 種類は、この辺りにある。4 種類のコロナウイルスで風邪をひいており、今回が 7 種類目で、新型コロナ感染症ということになっている。欧米でこの新型コロナで亡くなられた方が万人単位になったのは、6 割以上は老人ホームの方である。

今回、日本でも 1100 人の方が亡くなったが、多くの方が高齢者で、30 代以下で、亡くなった方は、28 歳の相撲取りの方が 1 人だけであることから、基本的に、50 代以下の方は、あまり慌てなくていい。

70 代以上の方、やはり高齢者施設と病院が気をつけないといけない。ここが重症化等、死亡者が多くなるので、ここだけは気をつけて、あとは一般的にそう慌てなくていいということが、だんだんはっきりしてきた。国も県も緊急事態宣言を出したが、鹿児島県は 3 ヶ月で 2400 人から 9000 人が、国全体では 40 万人から 200 万人が 3 ヶ月以内に亡くなるというのを想定したのが、緊急事態宣言であった。ところが現在の死亡者は、国全体で 1100 人、鹿児島県で 8 人であるので、そう慌てることはなくなりつつある。あとはワクチンと薬ができれば、大丈夫である。

ただし、薬とワクチンがあるインフルエンザも年間 3000 人亡くなっている。また、結核も毎年 2000 人ずつ日本で亡くなっており、一昨年は 2200 人が結核で亡くなっている。結核もインフルエンザも、空気感染する感染症であるが、新型コロナは、今のところ空気感染はしないのではないかとされており、感染力としては、インフルエンザより低いと言われているので、皆さん落ち着いて、経済活動はまわしながら、やっていけば大丈夫かなと思う。100 年前のスペイン風邪は若い人が死んだ。今回は高齢者の方に被害が集中しているのが特徴であるので、我々県議会も、高齢者対策、高齢者施設と病院に政策資源を集中しようということで関係当局とも話し合いをしているところである。

(伊藤浩樹 議員)

排水機場は、大体、農水省が管轄してる部分が多い。

県が管理をしているところもあり、市町村が管理をしているところもあり、管理組合が管理をしているところもある。

補修は、事業費に応じ事業主体が変わるが、一基大体、5 億とか 6 億かかるというエンジンであり、しっかりした管理をしていかなきゃいけない。平成の初めぐらいにできたものが多く、市町村や県を通じたりして、管理をしっかりしていけば、長持ちをしていく。

今、管理体制を整えていこうという形で取り組んでいるので、参考として申し上げる。